

蔦屋重三郎（蔦重）の足跡と吉原界限散策

記

日時： 2025年5月20日（火）13時

集合： 13:00台東区民会館1階ロビー アクセス：東京メトロ銀座線浅草駅 7番出口から徒歩5分・都営浅草線浅草駅 A4出口から徒歩8分 <https://taito-tsutaju.jp/features/access>

解散：16時頃：三ノ輪駅（地下鉄日比谷線）、南千住（JR線もしくは日比谷線）

雨天決行（ただし異常気象、豪雨、酷暑等の場合、下記行程の変更有）

一行程＜総歩行距離約5～6キロ、約1万歩＞

13:00～13:50『べらぼう江戸たいとう大河ドラマ館』同会館9階 入館料¥800（団体20名以上¥640）

台東区民会館 → 正法寺（蔦屋重三郎菩提寺） → 山谷堀公園経由 → 見返り柳・衣紋坂（えもんざか→吉原大門
吉原域内 散策：お歯黒溝（どぶ） -->（旧仲之町沿い）『耕書堂』模擬店→水道尻（吉原「出口」） → 吉原
神社 → 弁財天→国際通経由 → 浄閑寺→ 回向院・延命寺（小塚原処刑場跡） → 三ノ輪（地下鉄日比谷線）・南千
住（JR線もしくは日比谷線）

16時頃解散：三ノ輪（地下鉄日比谷線）・南千住（JR線もしくは日比谷線）解散

□トイレ：台東区民会館、正法寺、山谷堀公園、吉原大門（おおもん）弁財天前「花園公園」、浄閑寺、三ノ輪（日比谷線駅）、南千住（JR駅もしくは日比谷線駅）

「吉原界限 散策 概略」

「吉原界限」散策 概略

吉原遊郭は、徳川時代に始まり明治・大正・昭和まで続いた「公認」の遊郭です。遊郭の長方形の区割りは現在でも奥浅草の地図上ではっきり識別できます。NHKの大河ドラマで取り上げられている蔦屋重三郎（蔦重）が生まれ育った吉原の遺構界限を今回散策する企画を行いました。以下が散策場所の概略です。

1.べらぼう江戸大河ドラマ館

べらぼう江戸大河ドラマ館は、江戸時代中期の吉原遊郭を体感できる施設です。NHKの大河ドラマセットや映像を通じて、妓楼が立ち並ぶ様子が再現されています。この展示は、単に江戸時代の娯楽文化を知るだけでなく、当時の社会的背景や文化の発展に遊郭がどのように貢献したのかを理解する助けとなります。散策の起点として、この施設で当時の吉原遊郭の雰囲気を楽しみながら歴史を学び、次のスポットへの期待を高めましょう。

2.山谷堀（さんやぼり）

山谷堀は、江戸時代初期に荒川の氾濫防止のために整備され、隅田川から吉原遊郭へと通じる水上路として利用されました。この堀は「山谷通い」として親しまれ、猪牙船（ちょきぶね）での移動は粋で優雅とされ、界限には船宿や料理屋が立ち並びました。吉原への重要なアクセス路として栄えましたが、明治以降、新橋などの花街の発展に伴い次第に寂れていきました。昭和初期には肥料船の溜まり場となり、最終的に1975年までに全て埋め立てられました。現在では「山谷堀公園」として整備され、当時の風情を偲ぶ場所として親しまれています。また、公園内では猪牙船のレプリカを見ることができ、水運文化と遊郭文化の繋がりを実感する

3. 蔦屋重三郎

蔦屋重三郎は、1750年（寛延3年）に江戸新吉原に生まれ、出版業を通じて江戸文化の発展に貢献しました。吉原細見の編集者として頭角を現し

その後、黄表紙や洒落本など多様な出版物で人気を集めました。また、錦絵出版に携わり、喜多川歌麿を発掘し多くの浮世絵を世に送り出し

ました。蔦屋重三郎の成功は、吉原が流行の発信地として重要な役割を果たしていたことを示しています。彼の生涯は吉原の文化的意義を理解する上で欠

かせないものです。

4. 正法寺（蔦屋重三郎の墓所跡）

正法寺は日蓮宗の寺院であり、蔦屋重三郎の墓碑が建つ歴史的な場所です。この寺院は江戸時代後期に文化活動が盛んだった時代で、蔦屋重三郎の墓所跡は江戸吉原の文化役割と深く、歴史好きにあって見逃せないスポットです。また、正法寺境内には地域の教育の歴史とも

5. 見返り柳

見返り柳は、遊郭を訪れた客が帰路で名残を惜しみながら振り返った柳に由来する地名です。現在では石碑としての跡が残り、昭和期に植えられた柳が近くに立っています。遊客の心情や遊郭文化の情緒を感じられる歴史的なスポットです。

6. 衣紋坂（えもんざか）

衣紋坂は、遊客が坂の途中で身なりを整えたことに由来します。この坂は、将軍の日光参詣時に遊郭が視界に入らないようS字状に設計されました。このような都市設計から、当時の社会背景や遊郭文化の位づけを学べます。坂を登りながら、当時の風景に思いを馳せましょう。

8.大門（おおもん）

吉原遊郭の正面玄関であった大門は、遊郭への唯一の入口でした。治安維持や遊女の逃亡防止のための役割を持ち、江戸時代には黒塗り木造のアーチ型楼門として建設されました。現在は跡地として交差点名やバス停名にその名を残し、吉原文化の象徴的な存在として記憶されています。

9.お歯黒溝（どぶ）

お歯黒溝は吉原遊郭を囲む堀で、遊郭を隔離する役割を果たしていました。約9メートル幅のこの堀は、関東大震災後に埋め立てられ、現在では暗渠としてその名残を残すのみです。遊郭文化の閉鎖性と江戸の都市計画を象徴する場所です。

10.吉原神社（よしわらじんじゃ）

吉原遊郭の鎮守として設立された吉原神社は、遊郭内の稲荷社を合祀して創建されました。弁財天を祀る吉原弁財天祠も後に合祀され、文化的な精神性を守り続けています。楼主たちの名前が刻まれた玉垣や歴史的背景は、当時の遊郭文化と地域信仰の繋がりを物語っています。

11.浄閑寺

浄閑寺は「投げ込み寺」として知られ、不幸な遊女たちを供養してきた寺院です。推定2万5千人の遊女がここで弔われ、「新吉原慰霊塔」や「ひまわり地蔵尊」、さらに「生まれては苦界、死しては浄閑寺」という句碑がその歴史を物語っています。この寺は、遊郭文化の華やかな一面だけでなく、厳しい現実を伝える重要な地でもあります。

12. 小塚原（こづかっぱら）処刑場跡

江戸三大刑場の一つである小塚原処刑場（他は東海道の鈴ヶ森刑場、甲州街道の大和田刑場）跡は、幕府による刑の執行が行われた場所です。頼三樹三郎、吉田松陰、橋本佐内など、幕末の志士を含む多くの人々がここで処刑されました。特に国事犯の処刑場として幕末期に重要な役割を果たしたこの場所には、歴史的な墓標が残され、命の尊さと法の厳しさを考えさせられる場となっています。近隣の回向院では、処刑された人々の魂が弔われており、訪れる人々にその背景を伝え続けています。

13. 延命寺

延命寺は小塚原処刑場跡に隣接する寺院で、幕末の国事犯たちの墓が並ぶ貴重な歴史的地です。寺内には吉田松陰、橋本佐内、頼三樹三郎など、幕末の激動期に活躍した維新志士たちの墓碑が残されています。延命寺は、処刑場跡と異なり、これら志士たちの功績を称え、後世に伝える役割を担っています。訪れることで、当時の政治的背景や志士たちの思いを知ることができ、歴史の深さを感じ取ることができる場所です。

解散：三ノ輪・（地下鉄日比谷線）、南千住（JRもしくは日比谷線）

吉原仲之町通り幻影（NHK 大河ドラマセット、台東大河ドラマ館）



散策コース

